



## 初期導入ガイド 2

---

**基本設定編**  
proNAS シリーズ共通  
Ver. 1.02

---

### 対象機種

SN-1403AH  
SN-2803H-PDC  
SN-2123H-QX  
SN-3163H-QX  
DN-503AH-PDC

**プリンストンテクノロジー株式会社**

2008年11月10日

---



- このページは余白です -




## 目 次























はじめに .....	5
ご注意.....	5
1. HDD 論理デバイス (Volume Set) の設定変更 .....	7
2. 論理ボリュームグループ (VG) の設定 .....	12
2.1. proNASVG 再セットアップ手順 .....	12
3. ネットワークの設定 .....	15
3.1. ホスト名の変更 .....	15
3.2. IP アドレスの変更 .....	16
4. アカウントの作成 .....	18
4.1. アカウント (ユーザ) の作成 .....	18
4.2. グループの作成 .....	20
5. 論理ボリューム (LV) と共有の設定 .....	21
5.1. 新規 Logical Volume(LV)の作成 .....	21
5.2. 新規共有の作成 .....	23
6. システム再起動.....	27
カスタマーサポートお問い合わせ先 .....	28

## 安全上のご注意

ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られるところに大切に保管してください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

	この記号は禁止の行為であることを告げるものです。
	この記号は注意（警告を含む）を促す内容であることを告げるものです。
	この記号は行為を規制、指示する内容を告げるものです。

 <b>警告</b>	
	<p>万が一、次のような異常が発生した時は、そのまま使用しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・煙が出ている、変な臭いがするなど異常な場合。</li> <li>・内部に水や金属物が入ってしまったとき。</li> <li>・落下するなど、筐体が破損したとき。</li> </ul> <p>このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから、販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。</p>
	この製品を分解、改造しないでください。火災や感電の原因となります。
	この製品を水などの液体で濡らさないでください。感電や故障の原因となります。
	電源コードをたこ足配線しないでください。火災、機器の故障や誤動作の原因となります。
	本体電源コードを他の設置線（特に、複合機など大電力を使用する機器など）と共有するコンセントには接続しないでください。機器の故障、誤動作の原因となります。
	通風孔を塞がないでください。十分に排熱をすることができない環境に設置した場合、機器の故障が発生する可能性があります。
	温度が高すぎる所、低すぎる所、急激な温度差が発生する場所には設置しないでください。機器の故障、誤動作の原因となります。
	強い磁界を発生する物（テレビ、ラジオ、アンテナ、送電線等）の近くに設置しないでください。やむを得ない場合は、シールド工事などを行ってください。
	電源ノイズを発生する機器の近くには設置しないでください。
 <b>注意</b>	
	直射日光やストーブのような熱器具、調理器具等の近く、高温や多湿になる所に設置しないでください。変形、変質、故障、誤動作の原因となります。
	<p>次のような場所に設置しないでください。火災、感電、けがの原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湿気や埃が多い場所</li> <li>・ぐらついた台の上、傾いた所など不安定な場所</li> <li>・調理台や加湿器の側など、油煙や湯気があたる場所</li> </ul>
	電源コンセントは、AC100V、平行二極アース付以外は使用を避けてください。
	定格電源を超える配線をしないでください。
	汚れがひどい場合は、中性洗剤等で拭き取ってください。シンナーやベンジンなどは、絶対に使わないでください。
	移動する時は、衝撃を与えないようにしてください。また、電源コード、LAN ケーブル等、接続されているケーブル、機器などは全て取外してから移動作業を行ってください。
	輸送をする必要がある場合は、専用の梱包材をご利用ください。衝撃や振動で故障する場合があります。
	振動が発生する場所には設置しないでください。機器の故障や誤動作の原因となります。
	機器の稼動中に電源コードを抜く等の行為は行わないでください。電源を落とす必要がある場合は、正規の手順でシャットダウンしてください。
	物の落下が考えられる場所には設置しないでください。
	帯電防止加工の施されていない絨毯の上には設置しないでください。

## はじめに

本書は、出荷時の初期設定から、ご使用環境に即した標準的な設定変更を説明するマニュアルです。詳細な設定変更方法につきましては、「リファレンスガイド」をご参照いただきますようお願いいたします。本書の構成は次の通りです。

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 1. HDD 論理デバイス (Volume Set) の設定変更 | : Volume Set の変更例。出荷時にあらかじめ HDD 全数を割り当てた RAID6 の Volume Set が一つ作成されています。出荷状態のままご使用になる場合は参照不要です。                      |
| 2. 論理ボリュームグループ (VG) の設定          | : proNASVG の再セットアップ方法<br>出荷時にあらかじめセットアップしてありますが、Volume Set を変更してご使用になる場合は再セットアップが必要になります。<br>出荷状態のままご使用になる場合は参照不要です。 |
| 3. ネットワークの設定                     | : ホスト名や IP アドレスの設定方法   |
| 4. アカウントの作成                      | : アカウントの作成方法   |
| 5. 論理ボリューム (LV) と共有の設定           | : 論理ボリューム (LV) と共有フォルダ作成までの概要とアクセス権の設定方法   |
| 6. システム再起動                       | : 各設定終了後のシステム再起動について   |

ボリューム・ネットワーク関係の出荷時の設定は次の通りです。

HDD の論理デバイス (Volume Set) の RAID レベル	RAID レベル：機種・条件によって異なります。	
論理ボリュームグループ (VG)	proNASVG	
論理ボリューム (LV)	home, public	
共有フォルダ	home, public	
IP アドレス	eth0	172.16.0.1
	eth1	DHCP 自動取得
	eth2	DHCP 自動取得 (eth2 ポート搭載機種は SN-2803H-PDC / DN-503AH-PDC のみ)
	eth3	DHCP 自動取得 (eth3 ポート搭載機種は DN-503AH-PDC のみ)
ホスト名	proNAS	
管理者 (admin) 以外のアカウント	未作成	

### ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転記・転載することは禁じられております。

本書の内容は予告無しに変更する場合があります。

本製品および本書による運用を行った結果による損失、利益の逸失の請求等について、弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

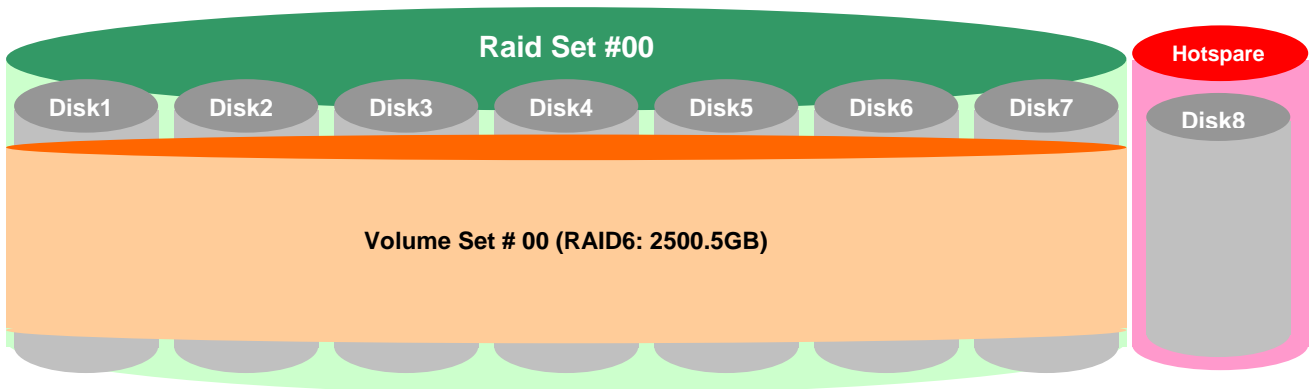
Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Java は、米国 Sun Microsystems, Inc の登録商標です

## はじめに

出荷時のボリューム構成は次の通りです。

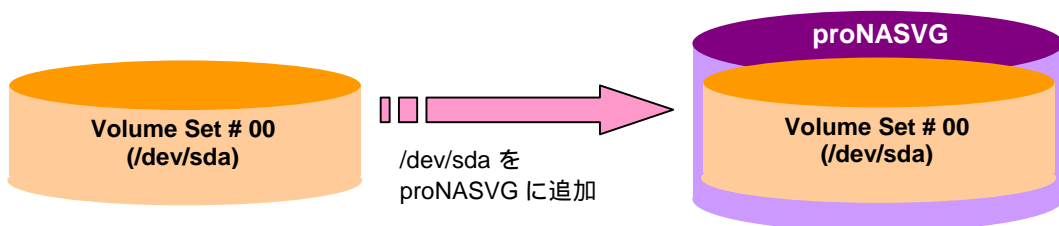
出荷時ボリューム構成のイメージ (SN-2803H-PDC/4T RAID6+Hotspare1 の場合)



8本中7本の物理ディスクをRaid Setに割り当て、残りの一つをHotspareにします。SN-2803H-PDC/4Tの場合、1個の物理ディスクは500GBですので、Raid Setの総容量は約3.5TBになります。約3.5TBの容量をRAID6で構成すると約2.5TBになります。

また、VG (Volume Group) はデフォルトのproNASVGを使用し、proNASVGに2個のVolume Setを割り当て(追加)しています。

出荷時のproNASVG構成イメージ



出荷時のボリューム情報

ボリュームマネージャ		オプション	
ディスクリスト (トータル: 2)			
ディスク名	インターフェイス	サイズ(MB)	ステータス
/dev/sda	SCSI	2384702	IN_USED
ボリュームグループリスト (トータル: 1)			
名前	ユニット (MB)	使用/全体容量 (M...	ディスクリスト
proNASVG	512	3584/2383872 MB	/dev/sda

上の画面は proNAS OS 上から見た出荷時のボリューム情報画面です。

Volume Set ( ) で RAID6 を構成し、その Volume Set が proNASVG に割り当て ( ) られています。

ボリュームに関する詳細説明は「リファレンスガイド」をご参照ください。

## 1. HDD 論理デバイス ( Volume Set ) の設定変更

ここでは、HDD 論理デバイスの設定変更方法について説明します。

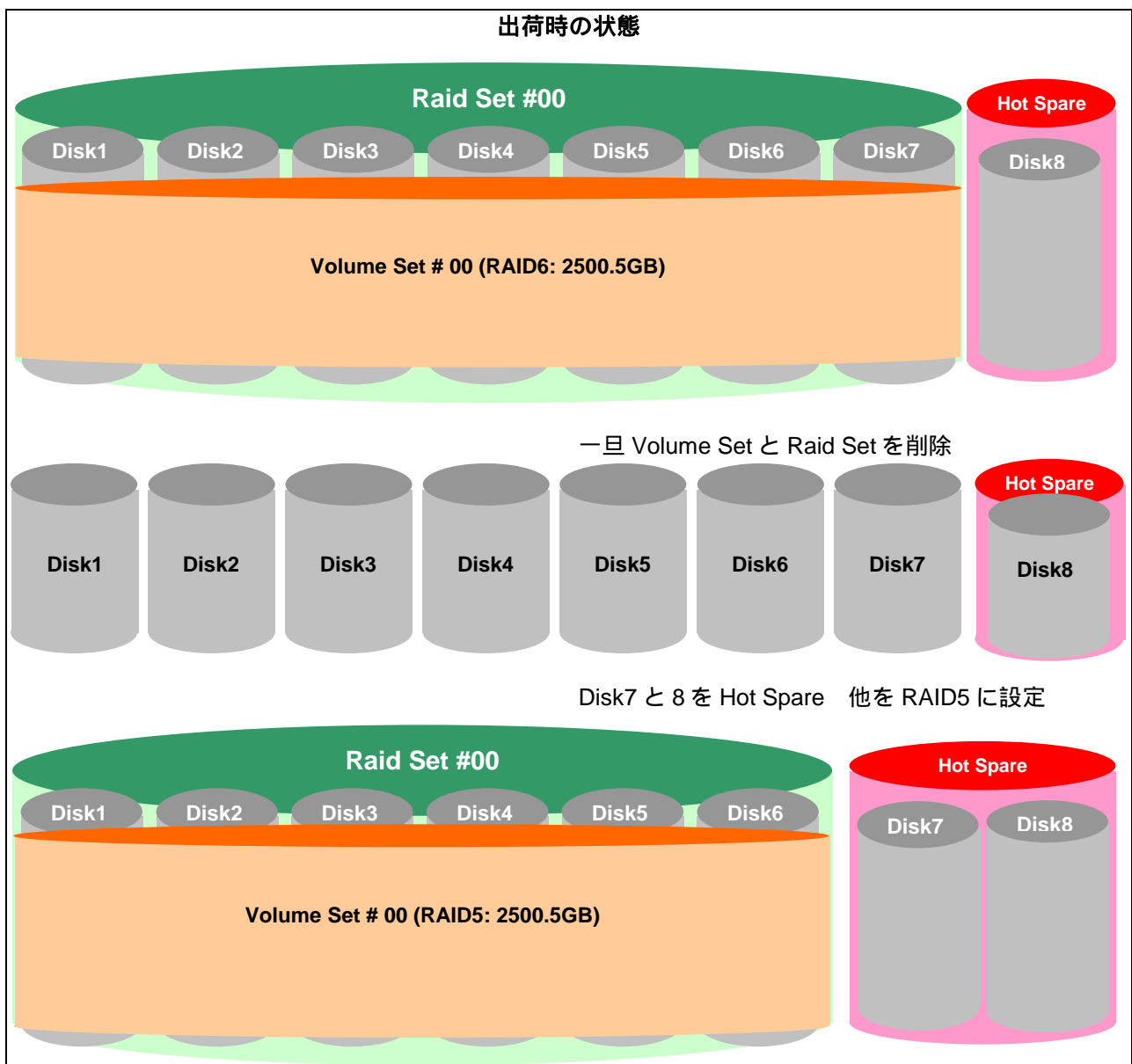
例えば、SN-2803H-PDC の論理デバイスの出荷時設定が「はじめに」の項で示した状態であった場合、HDD7 個を RAID6、残りの 1 個を Hot Spare ディスクに割り当てた状態となります。

このような出荷時状態のままご利用されるお客様は、この項の作業は必要ありませんが、RAID レベルや Hot Spare ディスクの個数を変更したいなどの場合、Raid Set や Volume Set を変更する必要があります。

これらの設定変更は、ブラウザ経由で Raid Manager にアクセスして行います。

ここでは、「はじめに」の項で示した初期設定を元に、RAID レベルを RAID6 から RAID5 へ、Hot Spare ディスクを 1 個から 2 個へ変更する作業を例に説明します。

HDD 論理デバイス設定変更イメージ



## 1. HDD 論理デバイス (Volume Set) の設定変更

Volume Set・Raid Set の詳しい内容・設定方法、または他の方法による変更手順は、「リファレンスガイド」をご覧ください。

### 手順 1 : Raid Manager へのアクセス・ログイン

Raid Manager へのアクセス・ログイン方法については「セットアップガイド」「リファレンスガイド」をご参照ください。

### 手順 2 : Raid Set の削除

下のような画面が表示されます。ウィンドウ画面左側のリンクメニュー ( ) の中から "Delete Raid Set" ( ) をクリックします。

The screenshot shows the RAID Manager interface for SN-2803H-PDC. On the left, the 'RaidSet Functions' menu is expanded, and 'Delete Raid set' is highlighted with a red box. The main area displays the 'Raid Set Hierarchy' table:

Raid Set	IDE Channels	Volume Set(Ch/Id/Lun)	Volume State	Capacity
Raid Set # 00	Ch01	Volume Set # 00 (0/0/0)	Normal	2500.5GB
	Ch02			
	Ch03			
	Ch04			
	Ch05			
	Ch06			
	Ch07			

Below the table is the 'IDE Channels' section with a table:

Channel	Usage	Capacity	Model
Ch01	Raid Set # 00	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
Ch02	Raid Set # 00	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
Ch03	Raid Set # 00	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
Ch04	Raid Set # 00	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
Ch05	Raid Set # 00	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
Ch06	Raid Set # 00	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
Ch07	Raid Set # 00	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
Ch08	Hot Spare	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360

画面はすべて SN-2803H-PDC のものです。機種によって画面のデザインが異なりますが、作業手順は変わりません。

画面が次のように切り替わるので、チェックボックス ( ) にチェックをつけ、[Submit] ( ) をクリックします。

The screenshot shows the 'Delete Raid Set' confirmation dialog. The 'Select The Raid Set To Delete' table is as follows:

Select	Raid Set Name	Member Disks	Capacity
<input checked="" type="checkbox"/>	Raid Set # 00	7	3500.8GB

Below the table, the confirmation checkbox is checked, and the 'Submit' button is highlighted with a red box.

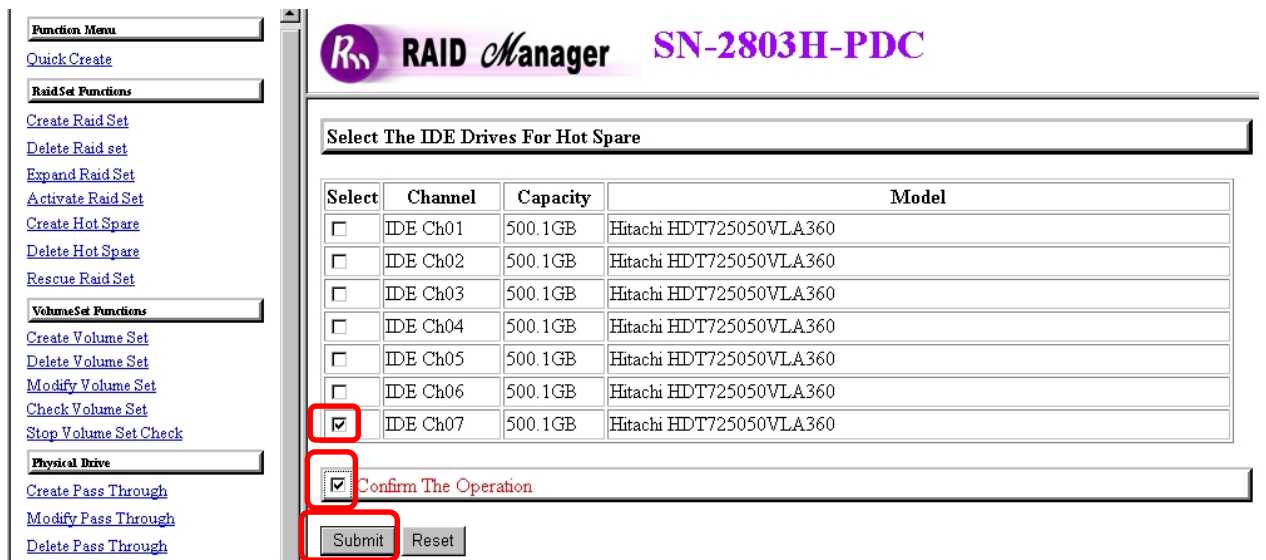


**手順 3 : Hot Spare ディスクの設定**

画面が次のように切り替わります。ウィンドウ画面左側のリンクメニューから、”Create Hot Spare” ( ) をクリックします。



画面が次のように切り替わります。チェックボックス ( ) にチェックを入れ、[Submit] ( ) をクリックします。



**手順 4 : Raid Set の作成**

画面が次のように切り替わります。リンクメニュー中から”Create Raid Set”( ) を選択します。



## 1. HDD 論理デバイス (Volume Set) の設定変更

手順 5 : 画面が次のように変わります。すべての HDD を選択し ( )、Confirm The Operation にチェックを入れ ( )、[Submit] をクリックします ( )。

Function Menu

Quick Create

RaidSet Functions

Create Raid Set

Delete Raid set

Expand Raid Set

Activate Raid Set

Create Hot Spare

Delete Hot Spare

Rescue Raid Set

VolumeSet Functions

Create Volume Set

Delete Volume Set

Modify Volume Set

Check Volume Set

Stop Volume Set Check

Physical Drive

Create Pass Through

Modify Pass Through

Delete Pass Through

**RAID Manager SN-2803H-PDC**

Select The IDE Drives For RAID Set

Select	Channel	Capacity	Model
<input checked="" type="checkbox"/>	IDE Ch01	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
<input checked="" type="checkbox"/>	IDE Ch02	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
<input checked="" type="checkbox"/>	IDE Ch03	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
<input checked="" type="checkbox"/>	IDE Ch04	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
<input checked="" type="checkbox"/>	IDE Ch05	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360
<input checked="" type="checkbox"/>	IDE Ch06	500.1GB	Hitachi HDT725050VLA360

Raid Set Name: Raid Set #00

Confirm The Operation

手順 6 : 以下のようなメッセージが表示されれば Raid Set の作成完了です。

Raid Set Created Successfully

手順 7 : Volume set の作成

リンクメニューの中から Create Volume Set をクリックし ( )、作成先の Raid Set を確認して [Submit] をクリックします ( )。

Function Menu

Quick Create

RaidSet Functions

Create Raid Set

Delete Raid set

Expand Raid Set

Activate Raid Set

Create Hot Spare

Delete Hot Spare

Rescue Raid Set

VolumeSet Functions

**Create Volume Set**

**RAID Manager SN-2803H-PDC**

Select The Raid Set To Create Volume On It

Select	Raid Set Name	Member Disks	Capacity
<input checked="" type="checkbox"/>	Raid Set # 00	6	3000.6GB

- 手順 8 : 画面が次のように変わります。  
 Select Raid Level ( ) に Raid5 を選択します。  
 Greater Two TB Volume Support ( ) に 64bit LBA を選択します。  
 チェックボックス ( ) にチェックを入れ、 [Submit] ( ) をクリックします。  
 Max Capacity Allowed が 2199GB 以下の場合、 Greater Two TB Volume Support の項目は表示されません。

**Enter Volume Attribute On Raid Set #00**

Volume Name	Volume Set #00
Member Disks	6
Volume Raid Level	<span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">Raid 5</span>
Max Capacity Allowed	2500.5 GB
Select Volume Capacity	2500.5 GB
Greater Two TB Volume Support	<span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">64 bit LBA</span>
Volume Initialization Mode	Foreground Initialization
Volume Stripe Size	64 KBytes
Volume Cache Mode	Write Back
Tagged Command Queuing	Enabled
Max SCSI Speed	320MB/Sec
SCSI Channel:SCSI ID:SCSI Lun	0 : 0 : 0

Confirm The Operation

Submit
Reset

- 手順 9 : 以下のようなメッセージが表示されれば Volume Set の完成です。

Volume Set Created Successfully

- 手順 10 : Initialize の確認と本体の再起動  
 リンクメニューの中から RaidSet Hierarchy をクリックして、Volume Set の再設定による初期化の進捗状況を確認します。Volume State の表示が、  
 "Initializing (xx.x%)" から "Normal" になった後、本体を再起動してください。(本体の再起動については、「6. システム再起動」をご参照ください)

<b>Volume State</b>	
Initializing(1.7%)	5

**Initialize 時間目安(Foreground Initialization)**

型番	RAID6(構成 HDD 数:サイズ)		RAID5(構成 HDD 数:サイズ)
SN-1403AH	2T	約 1 時間 20 分(4 : 約 1TB)	約 1 時間 20 分(4 : 約 1.5TB)
	4T	約 4 時間 00 分(4 : 約 2TB)	約 4 時間 00 分(4 : 約 3TB)
SN-2803H-PDC	4T	約 2 時間 10 分(8 : 約 3TB)	約 3 時間 40 分(8 : 約 3.5TB)
	8T	約 4 時間 40 分(8 : 約 6TB)	約 6 時間 10 分(8 : 約 7TB)
SN-2123H-QX	6T	約 3 時間 20 分(12 : 約 5TB)	約 3 時間 30 分(12 : 約 5.5TB)
	12T	約 6 時間 20 分(12 : 約 10TB)	約 6 時間 20 分(12 : 約 11TB)
SN-3163H-QX	8T	約 3 時間 50 分(16 : 約 7TB)	約 4 時間 00 分(16 : 約 7.5TB)
	16T	約 7 時間 20 分(16 : 約 14TB)	約 7 時間 20 分(16 : 約 15TB)
DN-503AH-PDC	2.5T	約 2 時間 20 分(5 : 約 1.5TB)	約 2 時間 50 分(5 : 約 2TB)
	5T	約 4 時間 30 分(5 : 約 3TB)	約 4 時間 30 分(5 : 約 4TB)

実測に基づく参考値です。

## 2. 論理ボリュームグループ (VG) の設定

ここでは proNASVG の再セットアップ方法について説明します。proNASVG の再セットアップは proNAS Manager で行います。proNAS Manager へのアクセス・ログイン方法は「セットアップガイド」「リファレンスガイド」をご参照ください。

proNASVG とは、proNAS OS が必ず必要とする VG で、出荷時には既にセットアップ済です。出荷時設定のままご使用いただく場合は参照不要です。

通常は出荷時設定のまま、「5. 論理ボリューム (LV) と共有の設定」で述べる LV と共有を任意で作成すれば、ファイル共有などの基本的な用途ではご使用いただけます。ただし、バックアップマネージャ (リファレンスガイド参照) 機能などで、Volume Set の構成を変更して、proNASVG 以外の任意の VG を作成する場合は、proNASVG を再セットアップする必要があります。

なお、proNASVG の再セットアップが必要になる条件は次のとおりです。

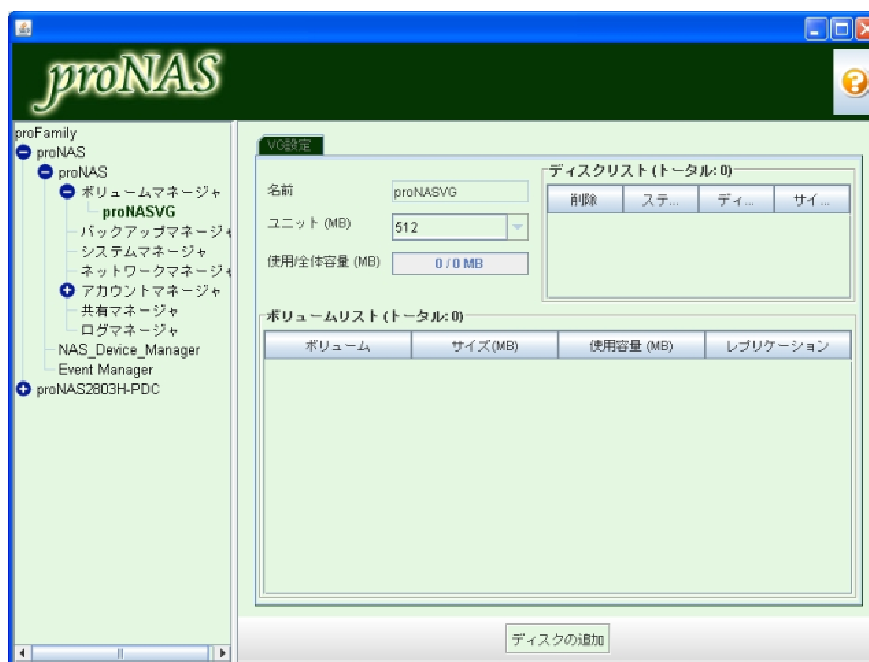
- Volume Set の構成を変更した場合
- 「すべてのデータと設定を削除」を実行した場合

本書では「すべてのデータと設定を削除」については取り上げませんので、「Volume Set の構成を変更した場合」を想定して説明します。Volume Set の構成変更については「1. HDD 論理デバイス (Volume Set) の設定変更」をご参照ください。「すべてのデータと設定を削除」については「リファレンスガイド」をご参照ください。

proNAS HA をご使用になる場合、proNAS HA は proNAS VG 以外の VG に対応しておりませんので、ご注意ください。

### 2.1. proNASVG 再セットアップ手順

下記の手順にて proNASVG のセットアップを行います。



手順 1 : [ディスクの追加]をクリックします。

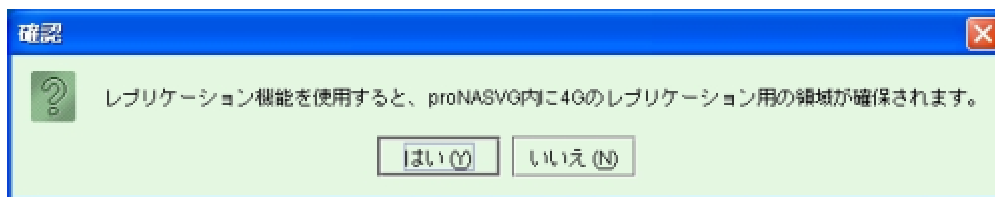
## 2. 論理ボリュームグループ (VG) の設定

- 手順 2 : 未使用 (未追加) の Volume Set のリストが表示されます。  
ユニットサイズを選択し ( )、追加したい Volume Set の「加入」欄に、最低 1 つチェックを入れ ( )、[OK] をクリックします。  
ユニットサイズについては「リファレンスガイド」をご参照ください。

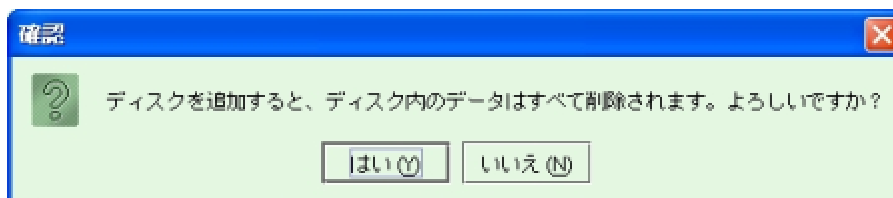


あとで任意の VG を作成したい場合は、ここで全てのディスクを proNASVG に参加させてしまうと、任意の VG が作成出来なくなりますのでご注意ください。

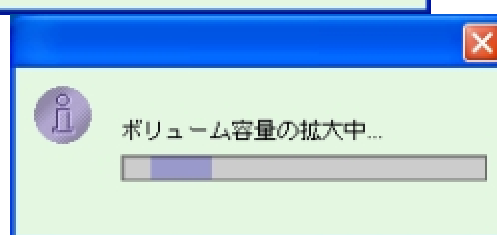
- 手順 3 : レプリケーション機能に関する確認ダイアログが表示されます。ここでは[はい]をクリックしてください。  
レプリケーション機能については「リファレンスガイド」をご参照ください。



- 手順 4 : ディスク内のデータに関する確認ダイアログが表示されます。[はい]をクリックします。

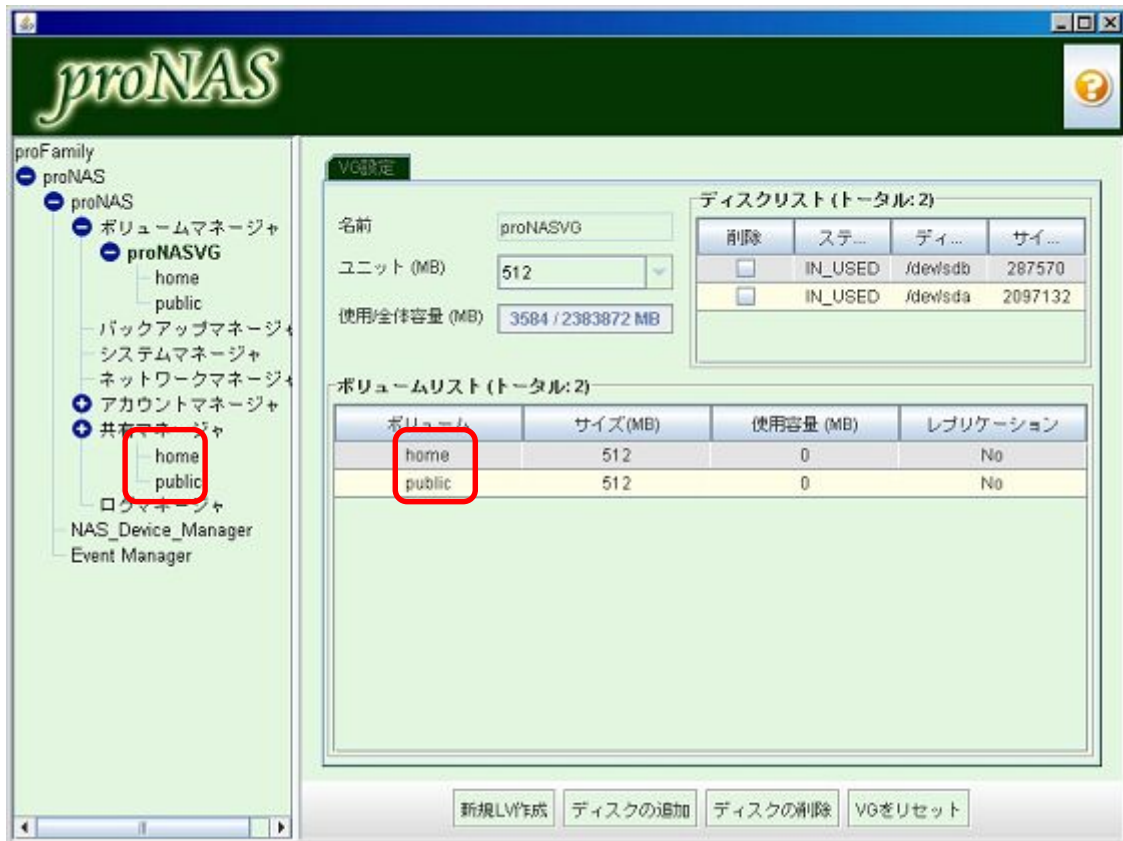


Volume Set の追加中は右のような画面が表示されます。



## 2. 論理ボリュームグループ (VG) の設定

手順 5 : 下のような画面になれば、proNASVG のセットアップは完了です。

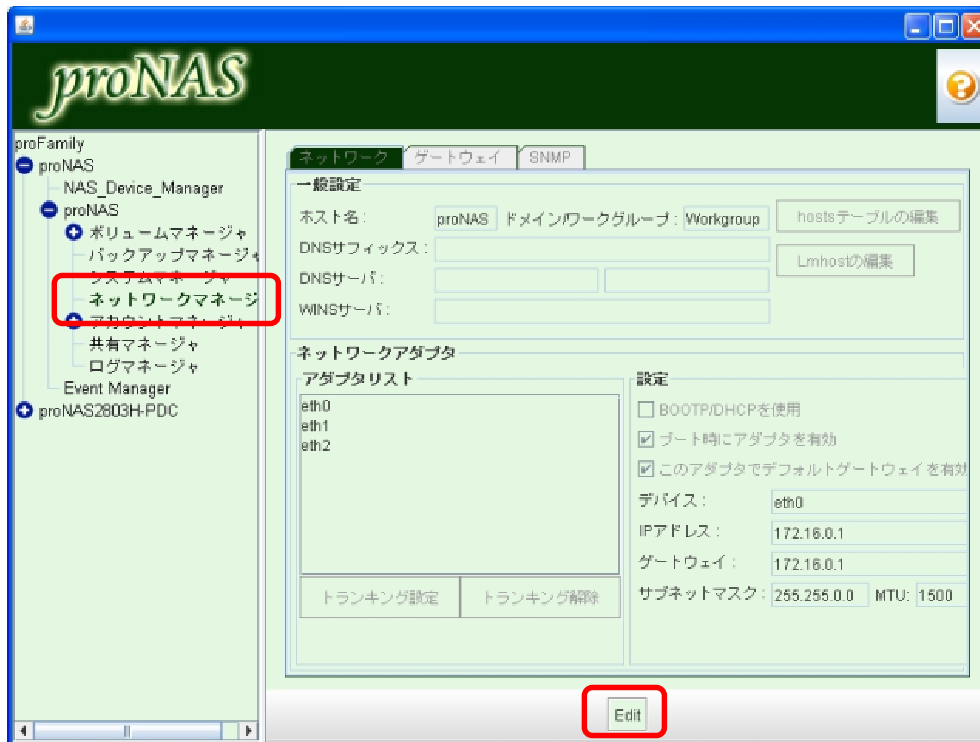


proNASVG のセットアップが完了すると、LV "home" 及び "public" ( )、共有 "home" 及び "public" ( ) が自動的に生成されます。

## 3. ネットワークの設定

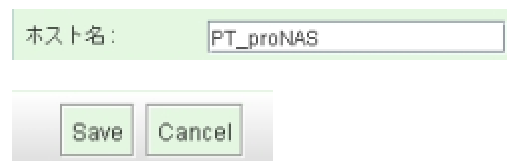
ここではホスト名と IP アドレスの変更について説明します。  
必ず事前に proNASVG がセットアップされていることが必要です。proNASVG は出荷時にセットアップ済ですが、設定変更してご使用になる場合にはご注意ください。

### 3.1. ホスト名の変更

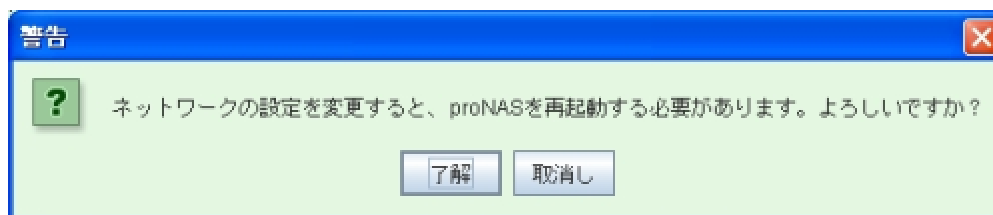


手順 1 : 「ネットワークマネージャ」をクリックし ( )、[Edit] をクリックします ( )。  
Edit モードに切り替わり、[Edit] であった場所が [Save][Cancel] に変わります。

手順 2 : 「ホスト名」の欄がアクティブになりますので、任意の名称を入力し、[Save] をクリックします。



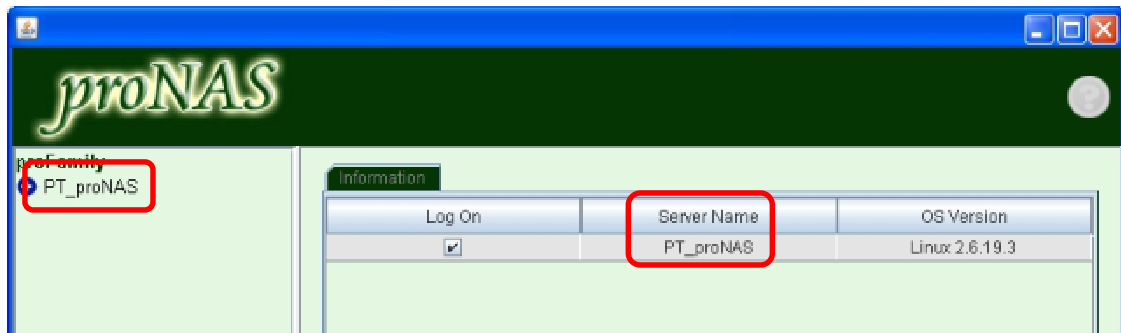
手順 3 : 下のような警告画面が表示されたら、[了解] をクリックします。



### 3. ネットワークの設定

手順 4 : 画面表示は自動的に更新されませんので、proNAS Manager の設定画面を閉じ、3 分程度（proNAS 再起動時間）待機したのち、再度 proNAS Manager にログインします。

手順 5 : 再ログイン後にホスト名（Server Name）が変更されていることをご確認ください。



### 3.2. IP アドレスの変更

手順 1 : 「ネットワークマネージャ」をクリックし、[Edit]をクリックします。

手順 2 : 「アダプタリスト」で変更したいアダプタをクリックして選択し、「設定」欄で設定変更します。2つのアダプタを同時に選択することで、トラッキング設定を行うことができます。（トラッキング設定については「リファレンスガイド」）をご参照ください。

#### IP アドレス変更画面



<b>BOOTP/DHCP を使用</b>	IP アドレスを DHCP 自動取得させる場合にチェックを入れます。
<b>ブート時にアダプタを有効</b>	システム起動時にアダプタを有効にする場合にチェックを入れます。
<b>このアダプタでデフォルトゲートウェイを有効にする</b>	デフォルトゲートウェイに設定する場合にチェックを入れます。
<b>IP アドレス/ゲートウェイ/サブネットマスク</b>	IP アドレス/ゲートウェイ/サブネットマスクの各値を入力します。
<b>MTU</b>	MTU 値を入力します。通常は変更不要です。



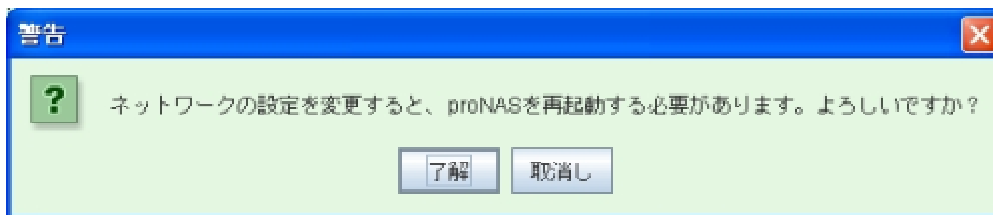
すべてのアダプタで「ブート時にアダプタを有効」のチェックを外してしまうと、proNAS OS や共有フォルダへのアクセスが一切出来なくなりますのでご注意ください。万一すべてのアダプタを無効にしてしまった場合は弊社サポートまでご連絡ください。



### 3. ネットワークの設定

手順 3 : 設定変更後[Save]をクリックします。

手順 4 : 下のような警告画面が表示されたら、[了解]をクリックします。



手順 5 : 画面表示は自動的に更新されませんので、proNAS OS の設定画面を閉じ、3分程度 (proNAS 再起動時間) 待機したのち、変更した IP アドレスで再度 proNAS OS にログインします。

手順 6 : 再ログイン後に IP アドレスが変更されていることをご確認ください。



#### 各アダプタの役割

各アダプタには、管理用 (管理者が proNAS OS 管理画面へアクセス) とデータ通信用 (ユーザが共有フォルダへアクセス) の 2 つの役割があり、各アダプタがどちらの役割を担うことも可能ですが、管理用のアクセスは、proNAS OS で eth0 に優先的にアクセスするように定義されていますので、原則的に管理用ポートは eth0 をご使用ください。eth1/2 から proNAS OS 管理画面にアクセスした場合、レスポンスが遅いため、結果的にアクセスできないこともあります。

SN-2803H-PDC の LAN ポート

アダプタ	転送速度	使用例
Eth0	10/100	管理用
Eth1	Gigabit	データ通信用
Eth2	Gigabit	データ通信用

SN-3163H-QX / SN-2123H-QX /  
SN-1403AH の LAN ポート

アダプタ	転送速度	使用例
Eth0	Gigabit	管理用兼 データ通信用
Eth1	Gigabit	データ通信用

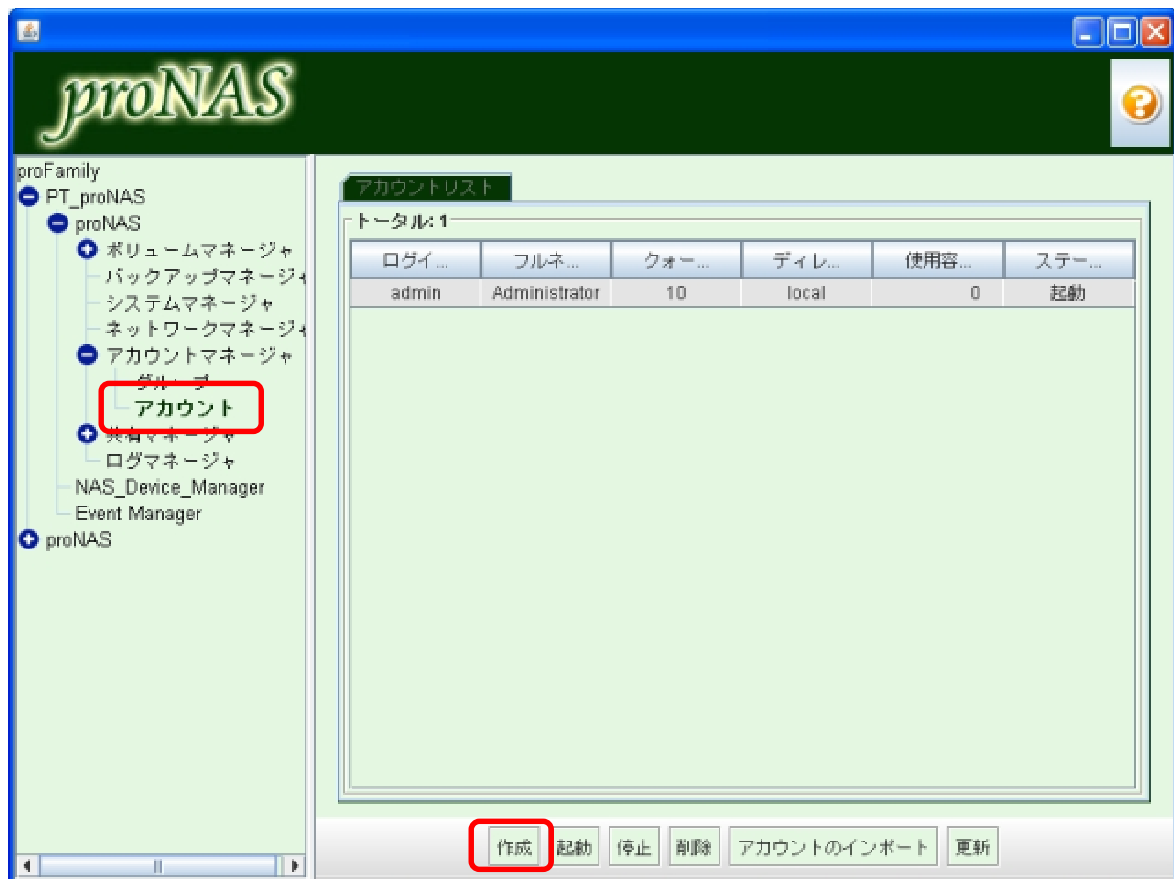
DN-503AH-PDC の LAN ポート

アダプタ	転送速度	使用例
Eth0	Gigabit	管理用兼データ通信用
Eth1	Gigabit	データ通信用
Eth2	Gigabit	データ通信用
Eth3	Gigabit	データ通信用

## 4. アカウントの作成

ここでは共有フォルダにアクセスするためのアカウント（ユーザ）及びグループの作成について説明します。アカウント グループの順に作成すると、スムーズに作成することが出来ます。

### 4.1. アカウント（ユーザ）の作成



手順1： 「アカウントマネージャ」 - 「アカウント」をクリックし（ ）、[作成]をクリックします（ ）。

#### 4. アカウントの作成

アカウントリスト

プロパティ パーミッション

一般

ログイン名: pt\_user

フルネーム: Princeton User

ディレクトリ・サービス: local

作成日: 2007/11/05 19:44

UID: 0

クォータ(MB): 1,000

パスワードの設定

ステータス

ステータス: 起動

使用容量: 0%

Save Cancel

手順 2 : 各項目を入力し、[Save]をクリックします。

ログイン名	ユーザ名
フルネーム	ユーザの説明等
UID	通常は変更不要
クォータ	容量制限
パスワード	ユーザのパスワード

手順 3 : 作成したアカウントがリストに追加されていることをご確認ください。

アカウントリスト

トータル: 2

ログイン...	フルネ...	クォー...	ディレ...	使用容...	ステー...
admin	Administrator	10	local	0	起動
pt_user	Princeton User	1000	local	1	起動

## 4.2. グループの作成

手順 1 : 「アカウントマネージャ」 - 「グループ」をクリックして、[作成]をクリックします。

手順 2 : 各項目を入力します。

グループ名	グループ名
GID	通常は変更不要
説明	グループの説明等

手順 3 : 「アカウントリスト」から、グループメンバーに追加したいアカウントを選択して[>>]をクリックし、[Save]をクリックします。

手順 4 : 作成したグループがリストに追加されていることをご確認ください。

グループ名	説明
users	Common group of proNAS. All users default joi...
proBackup	Members of the proBackup group are allowed t...
pt_group	Princeton Group

## 5. 論理ボリューム (LV) と共有の設定

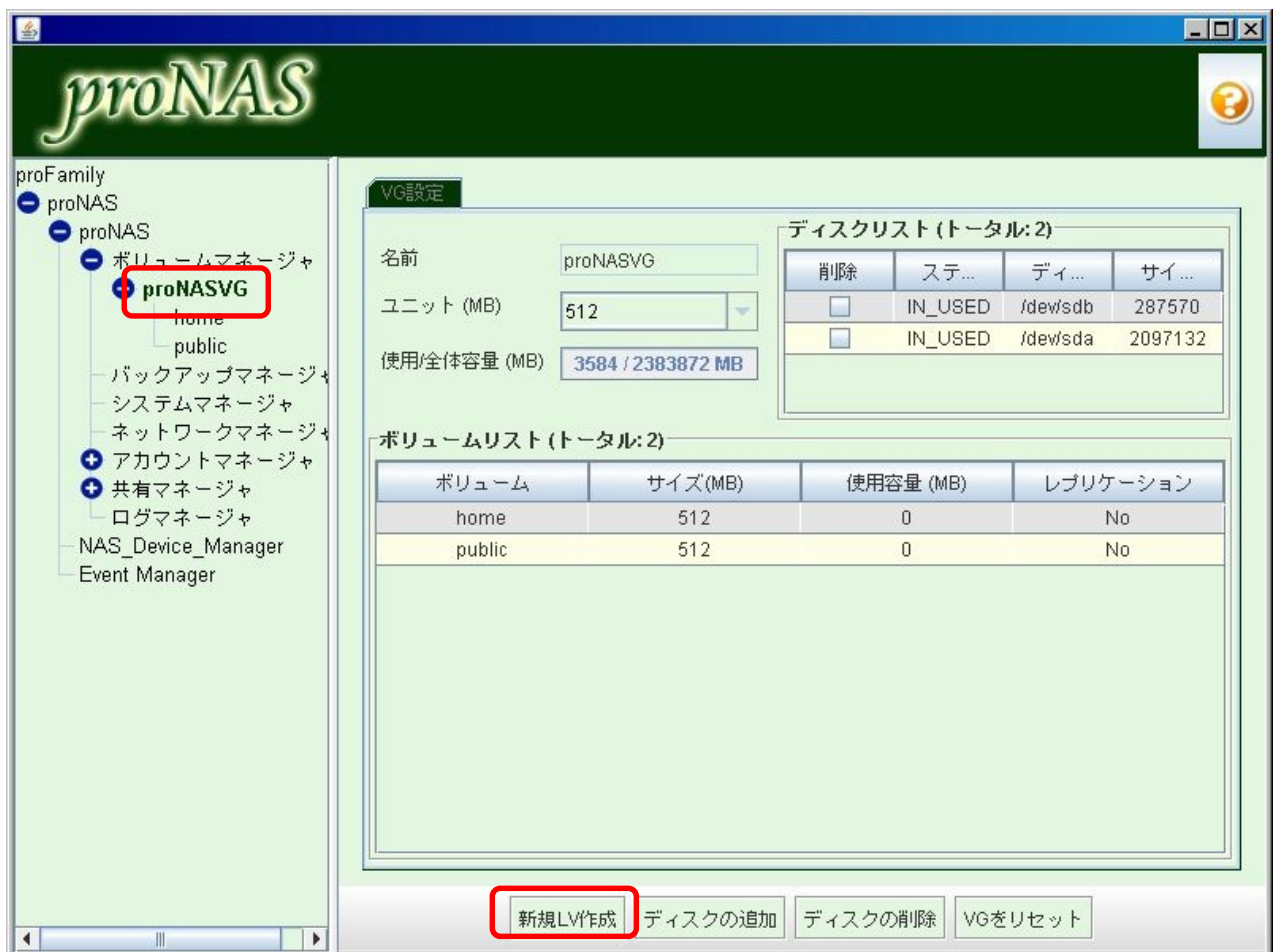
ここでは論理ボリューム (LV) と共有フォルダ (共有) の作成方法について説明します。作成手順は 2 通りあり、それぞれ特徴があります。管理者の管理の仕方によってどちらかの手順を選択してください。

	LV を作成してから共有を作成	共有を作成すると同時に LV を作成
長所	LV 名を任意で設定することが出来る。	共有作成と同時に LV が作成されるため、手順が少なくて済む。(この場合、共有のクォータサイズが LV サイズとなる)
短所	LV 作成 共有作成の 2 段階の手順が必要	共有作成画面では LV 作成可能容量がわからない。共有名と同じ名称の LV が自動的に作成される。

本書では管理面・運用面を考慮して「LV を作成してから共有を作成」する方法を取り上げます。「共有を作成すると同時に LV を作成」する方法については、「リファレンスガイド」をご参照ください。

### 5.1. 新規 Logical Volume(LV)の作成

ここでは proNASVG の中に LV を作成することを想定して説明します。proNASVG をセットアップすると自動的に“public”と“home”の 2 つの LV が生成され、残りの空き領域に新規 LV を作成します。

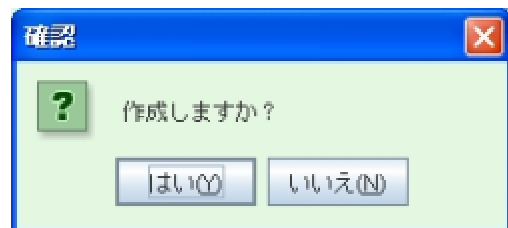


手順 1 : “proNASVG”をクリックして ( ) [新規 LV 作成]をクリックします ( )。

手順 2 : 各項目を入力し、[Save]をクリックします。

名前	LV の名称を任意で入力します。
使用/全体容量(MB)	作成する LV のサイズを入力します。 「空きボリュームグループサイズ(MB)」の値が上限です。
容量が足りない時メールを送る	チェックを入れると残量低下通知メール機能が有効になります。 メール通知については「リファレンスガイド」をご参照ください。

手順 3 : 右のようなメッセージが表示されたら[はい]をクリックします。



手順 4 : 作成した LV がリストに追加されていることをご確認ください。

ボリューム	サイズ(MB)	使用容量 (MB)	レプリケーション
home	512	0	No
public	512	0	No
pt_LV	2380288	1	No

## 5.2. 新規共有の作成

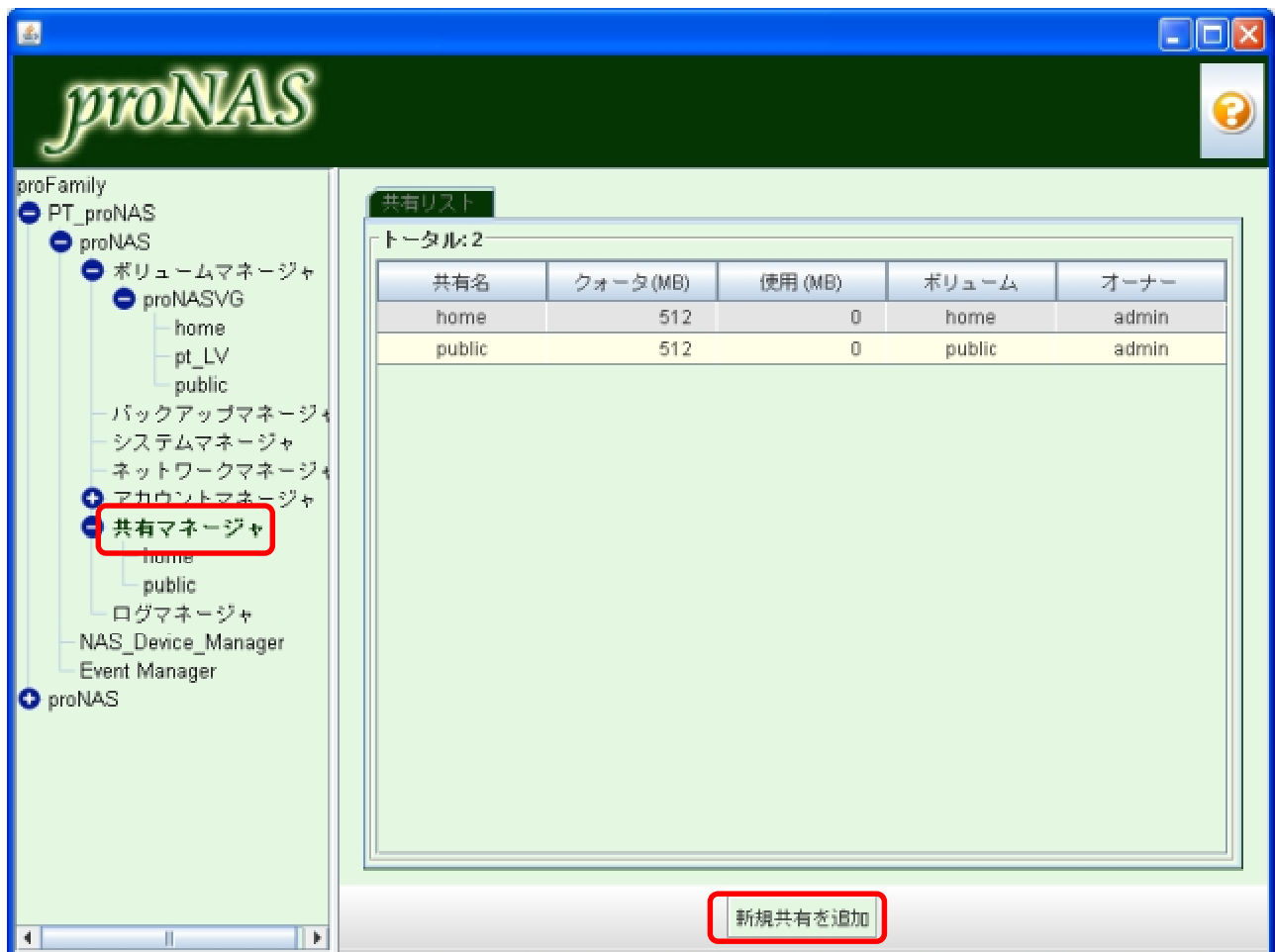
LV の作成が終わったら、共有を作成していきます。

proNASVG をセットアップすると、自動的に”home”と”public”の 2 つの共有が生成されますが、これらは特殊な動作をします。

- ・ ”home” : 実際にはアカウント名の共有名になります。そのアカウント専用の個人フォルダです。
- ・ ”public” : 誰でもアクセスできる共用領域です。アクセス権の設定は出来ません。

これらを利用する場合は、それぞれの LV 領域を拡張してください。LV の拡張については「リファレンスガイド」をご参照ください。

ここでは、新規 LV の中に新規共有を作成する方法について説明します。



手順 1 : 「共有マネージャ」をクリックして ( ) [新規共有を追加]をクリックします ( )。

## 5. 論理ボリューム (LV) と共有の設定

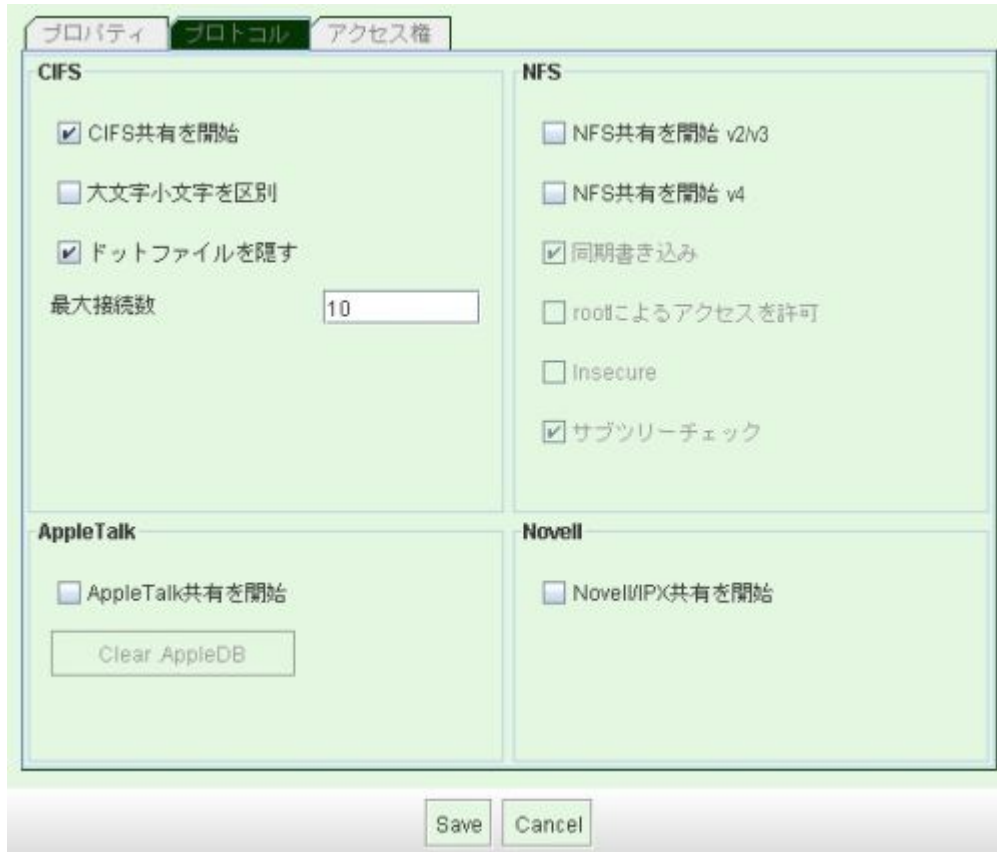
手順 2 : 各項目を入力します。

<b>共有名</b>	共有フォルダの名前を入力します。
<b>ボリュームグループ</b>	[ ]をクリックすると、セットアップされている VG のリストが表示されますので、「proNASVG」を選択します。新規作成した VG がある場合は、そちらを選択することも出来ます。
<b>新規 LV 作成</b>	共有を作成すると同時に LV を作成する場合は、これにチェックを入れますが、LV は作成済ですので、ここではチェックは外しておきます。
<b>ボリューム</b>	[ ]をクリックすると、「ボリュームグループ」の欄で選択した VG 内に作成されている LV のリストが表示されますので、共有を作成したい LV を選択します。
<b>オーナー</b>	この共有フォルダの所有者を選択します。
<b>ACL Support</b>	通常は上の画面のように設定してください。これらのオプションの詳細は「リファレンスガイド」をご参照ください。
<b>Public (777)</b>	
<b>ファイルクローンを隠す</b>	



手順 3 : 「プロトコル」タブをクリックし、各設定を行います。接続するクライアントの OS (プロトコル) によって設定を変更してください。通常 Windows クライアントのみの環境で使用する場合は最大接続数の値のみ変更するだけで十分です。

「プロトコル」タブの詳細については「リファレンスガイド」をご参照ください。



- 手順 4 : 次にアクセス権を設定します。  
 「グループ」「アカウント」タブ( )で、追加したいグループ・アカウントを切り替え、追加したいグループまたはアカウントを選択して( ) [追加]をクリックします( )。

プロパティ | プロトコル | **アクセス権**

グループ | **アカウント** | IPアドレス

ログイン名	フルネーム
pt_user2	new_user_fullname

追加 | 削除

パーミッション (トータル:4)

ID	タイプ	読み出し	書き込み	クォータ (MB)
admin	アカウント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0
users	グループ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	N/A
****	IPアドレス	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	N/A(not allow root)
pt_user1	アカウント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0

Save | Cancel

「パーミッション」欄にはアクセスが許可されているアカウントやグループが表示されます。

”users”が追加されている場合は、すべてのユーザに同一の権限が与えられます。オーナーアカウントは削除することが出来ません。

“\*. \*.\*.\*” は削除することが出来ません。

- 手順 5 : 設定が終わったら[Save]をクリックします。
- 手順 6 : 作成した共有がリストに追加されたことをご確認ください。

共有リスト

トータル: 3

共有名	クォータ (MB)	使用 (MB)	ボリューム	オーナー
home	512	0	home	admin
public	512	0	public	admin
pt_share	5,718,016	1	pt_LV	admin

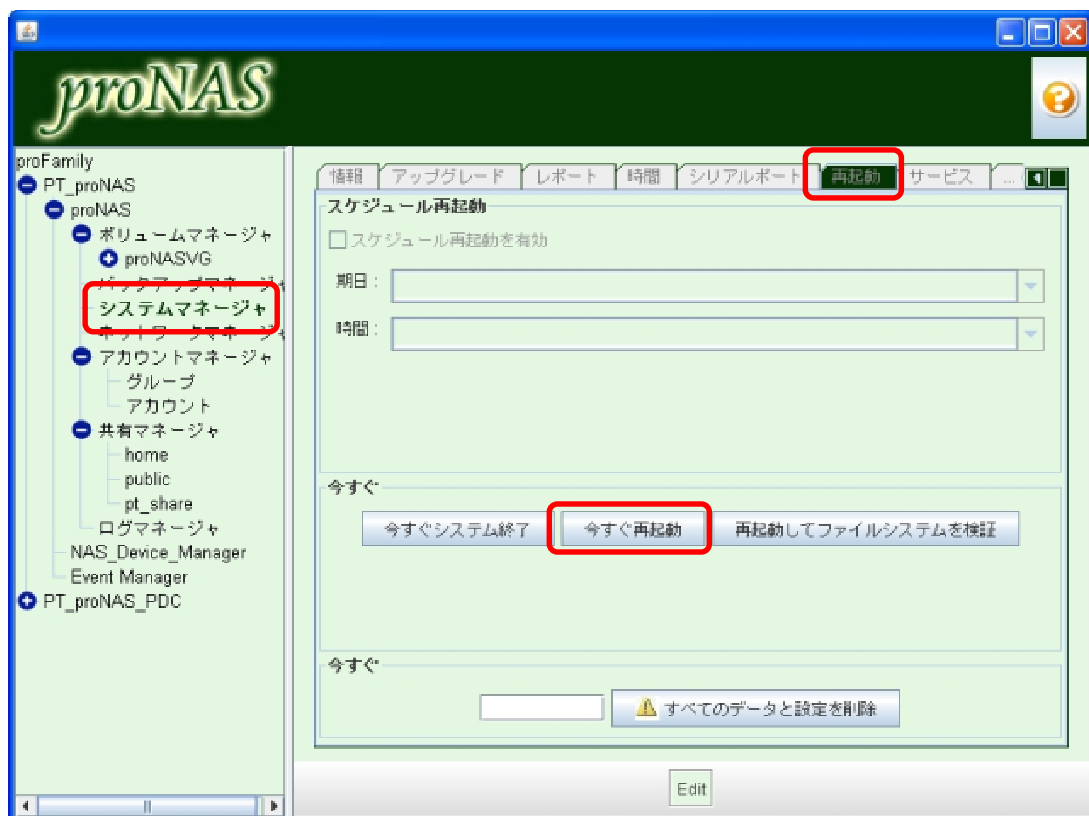
以上で標準的な初期設定変更は完了です。

## 6. システム再起動

proNAS OS は、設定後に画面上に再起動を促すメッセージが表示されない限り、設定変更が即座に有効になりますが、システムを再起動しない状態では設定情報が完全にはディスクに保存されていないため、万一停電等の不慮の事故で不正シャットダウンしてしまった場合、設定した情報が失われる場合があります。

そのようなトラブルを予防するためにも、各設定後は、必ずシステムを再起動してください。

システムの再起動手順は次の通りです。



手順 1 : 「システムマネージャ」をクリックし ( )、「再起動」タブ ( ) をクリックします。

手順 2 : [今すぐ再起動] をクリックします ( )。

手順 3 : 「今すぐ再起動します。よろしいですか?」というメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックします。

手順 4 : 「実行しますか?」というメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックします。

再起動後に再び管理画面に入るには再度ログインしてください。

# カスタマーサポートお問い合わせ先

## お問い合わせ先

プリンストンテクノロジー株式会社 カスタマーサポート

## 電話受付

電話番号： 03-6670-6848

受付時間： 9：00～12：00, 13：00～17：00  
(但し、土・日・祝日、および年末年始の指定日を除く)

## FAX 受付

FAX 番号： 03-3865-5025

翌営業日のお取り扱いとなります。お客様より頂きましたお問合せへのご回答は平日とさせていただきますので、予めご了承ください。

## Eメール受付

フォーム： <https://regist.princeton.co.jp/contactus/supportmail/nas.html>

お客様より頂きましたお問合せへのご回答は平日とさせていただきますので、予めご了承ください。

### お問い合わせ時のお願い

お問い合わせの際には、下記の項目を予めご準備いただき、カスタマーサポート担当者にお伝えいただきますようお願い致します。

- ・製品のモデル名
- ・製品のシリアル番号
- ・ご購入日
- ・ご購入先
- ・お客様のご連絡先
- ・proNAS OS のバージョン
- ・クライアント PC の OS の種類
- ・故障や不具合の発生日
- ・故障や不具合の内容
- ・その他アプリケーションの種類やバージョン等

# プリンストンテクノロジー株式会社